

「おおいた地域交通ビジョン2026（案）」に対する県民意見募集結果について

1. 実施期間
令和8年7月9日（木）～令和8年8月10日（月）まで
2. 提出意見件数
意見提出者数：2名 意見項目数7件
3. 意見の要旨と県の考え方及び反映状況について

番号	項目	意見の要旨	県の考え方及び反映状況
1	持続可能な地域交通への転換	人口減少や人材・財源の制約を前提に、既存交通の維持そのものではなく、県民が地域で暮らし続けられることを目的とした持続可能な交通体系への転換が必要。	限られた人材、財源、輸送資源を有効に活用し、持続可能な地域交通を構築することが重要です。 本ビジョンでは、既存の公共交通を維持・確保しつつ、県民の移動手段を将来にわたって確保する観点から、地域の移動実態やニーズを踏まえ、市町村や交通事業者等と連携しながら、地域の実情に応じた交通ネットワークの構築に取り組んでまいります。
2	交通ネットワークの最適化	鉄道、バス、タクシー、デマンド交通等の役割分担を明確にし、それぞれの特性を生かした効率的な交通ネットワークを構築すべき。	本ビジョンでは、輸送規模に応じて交通軸を「主要幹線」「地域幹線」「コミュニティ交通」に分類し、各交通モードの特性や役割を踏まえながら、地域の移動需要や利用実態に応じた、効率的で利便性の高い交通ネットワークの形成を推進することとしています。
3	新技術の活用と生活サービスとの連携	AI、DX、自動運転等の新技術を活用するとともに、医療、買い物、物流等との連携により、移動と生活サービスを一体的に確保する仕組みを構築すべき。	本ビジョンでは、AIオンデマンド交通や自動運転等の活用を進めるとともに、福祉、医療、教育、物流などの他分野との連携や、地域の様々な輸送資源の活用を図ることとしています。県民の暮らしを支える観点から、関係部局や市町村等と連携して取り組んでまいります。
4	大分空港アクセスにおける交通資源の最適配置	大分空港アクセスについて、ホーパークラフトの別府・湯布院方面等への活用や、大分空港－杵築駅間のアクセス・鉄道接続の強化など、交通資源の最適配置を検討すべき。	ホーパークラフトについては、更なる利便性向上につながる、別府・湯布院方面等への観光需要を取り込むといった、運航事業者による経営上の様々な工夫も期待されます。 また、大分空港からJR杵築駅を経由してハーモニールンドを結ぶ「ハーモニールイナリー」の運行など、航空機、鉄道、バス等の交通モード間の連携を進めており、引き続き、利用実態や観光需要等を踏まえ、空港アクセスの利便性向上に取り組んでまいります。
5	多様な利用者の暮らしを支える交通の充実	高齢者だけでなく、若者、子育て世代、働く世代、観光客等の多様な利用者を念頭に置き、若者のUターンや人材還流にもつながる移動環境を整備すべき。	本ビジョンでは、様々な利用者のニーズを踏まえ、日常生活に必要な移動の確保に加え、キャッシュレス決済や交通情報の充実、交通機関相互の連携を進めることとしています。 また、「九州MaaS」の活用など、隣接県とも連携しながら、県内外を円滑に移動できる環境づくりに取り組んでまいります。
6	地域特性に応じた交通体系の構築	都市部では既存交通の利便性向上、過疎地域ではデマンド交通や物流との連携など、地域特性に応じた交通モデルを導入すべき。	本ビジョンでは、「都市部」と「都市部以外」に区分し、公共交通ネットワークの形成方針を示しています。都市部では、交通モード間の役割分担や交通結節機能の強化による利便性の維持・向上を図る一方、都市部以外では、デマンド交通への転換や地域の輸送資源の活用など、地域の実情に応じた交通ネットワークの形成に取り組んでまいります。
7	電気自動車の導入促進	人口減少が進む中、将来的な自動運転化を見据えて、現時点から電気自動車の導入を一層促進すべき。	令和6年度から、交通事業者を対象に、EVバス・タクシーの車両及び充電設備の導入を支援しており、本ビジョンにおいても、EV車両の導入を推進することとしています。